

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		青少年教育推進事業（スクールサポート推進事業）						予算事業名		青少年教育推進事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				10	05	03	2001	経常経費					
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文						事業の区分		主要事業			
		4-1生きる力を育む教育環境づくり（学校教育）											
		①教育内容の充実						担当課係等		生涯学習課			
3教育体制の充実						生涯学習係							
事業期間		継続（平成28年度～令和 2年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
・小中学生の学力向上 ・小中学生の基本的生活習慣の確保 ・不登校児童生徒への適応指導 ・中学校部活動の充実							・小山市との友好都市盟約締結によって、小山市との交流活動が教育面でも活発になっている。そのような状況の中で、小山市内の大学との交流により、将来教職を目指す学生の活用は、小中学校の教育活動を活性化している。						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
・小中学生への学習支援 ・小学生への放課後学習サポート ・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 ・外国人への日本語指導や生活適応指導							市内全小中学生						
							【事業をとりまく環境の変化】 小中学生の学力向上や不登校やいじめ問題に関する生活指導は、茨城県だけでなく全国的な課題であり、各自治体での対応が見直されているところである。そのような状況の中で、大学生等によるサポート活動は、地元のエdukashon資源の発掘と有効活用の面でも、大変意義あるものとする。						
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
・小中学生への学習支援 ・小学生への放課後学習サポート ・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 ・外国人への日本語指導や生活適応指導				・小中学生への学習支援 ・小学生への放課後学習サポート ・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 ・外国人への日本語指導や生活適応指導				・小中学生への学習支援 ・小学生への放課後学習サポート ・「フレンドゆうの木」での学習支援や活動補助 ・外国人への日本語指導や生活適応指導					
■事業費													
				H30年度		R01年度							
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0						
	県		支	出	金	0	0						
	地		方		債	0	0						
	そ		の		他	0	0						
	一		般	財	源	332	790						
歳入計（千円）				332		790							
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）			金額（千円）		金額（千円）							
	08 報償費			312		768							
	12 役務費			20		22							
歳出計（千円）（A）				332		790							
伸び率（％）						137.95							
備考	総合計画113ページ 予算書172ページ												

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	大学生サポーター数	人	目標	42.00	20.00	25.00
	1校につき、1名～3名のサポーターを派遣する		実績	26.00	14.00	0.00
	活動延べ日数	日	目標	400.00	168.00	300.00
	学生1人につき、年間12日を平均とする。		実績	312.00	0.00	0.00
成果 指標	支援学校数	13校	目標	13.00	13.00	13.00
	市内小学校【9校】+中学校【3校】+適応指導教室（ゆうの木）からのサポート依頼を受ける。		実績	10.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	児童・生徒を多くの目で見える事で、よりきめ細やかな支援ができる。 各学校からスクールサポーターの有効性を聞く事ができ、かつ、スクールサポーター側からも有意義であることの報告がある。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	学校教育の指導に係る業務を担う指導課所管の方が、サポーターへの指導及び学校との連携がよりスムーズに行える。 教育実習生をサポーターとして呼び込める等の利点もある。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	駅から離れている学校を希望するサポーターは少なく、学校によりサポーターの数に差が生じている。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	サポーターの人員確保困難の1つの要因となっている。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	受益者が所属する学校の受け入れ体制により、受益者に偏りは生じる。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	学校側から、サポート人数や回数を増やす事への要望もあるなど、本事業が有効であるといえる。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	サポートを希望する学校は増えているが、サポーターの人数確保が難しい。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
事業については、各学校から好評であり、サポーターの学生からも勉強になるとの意見をもらっている。結城市は、学生へのレンタルサイクルや給食指導の提供などがあるが、各校担当の教諭と事務局、事務局と学生との円滑な情報交換を行い、サポーターの確保、バランスの取れた配置に努め、より効果的に行えるようにする。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
事業をより効果的に展開するためには、サポーターの確保が最重要課題である。白鷗大学でのPR及びお知らせ版等掲載により、人材確保に努める。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 実施主体であるスクールサポーターを確保するために、学生等に対してより効果的なPR方法を検討する。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。